

## 100 年企業

「100 年企業」という言葉を聞いたことがありますか？文字通り創業から 100 年以上続く企業のことです。日本には世界でも群を抜いて多くの 100 年企業が存在し、帝国データバンクの調査によると、2024 年時点での 100 年企業は全国に 3 万 3,000 社以上存在し、特に中小企業が多いのが特徴です。なぜこれほど長く存続できるのでしょうか？

100 年企業に共通するのは、変化の激しい時代を乗り越えるための「軸」と「適応力」です。「軸」とは創業以来受け継がれてきた揺るぎない理念です。利益だけを追求するのではなく、社会への貢献や顧客への誠実さ、従業員を大切にしている精神などがこれにあたります。例えば京都には老舗企業が多いですが、「家訓」や「のれん」といった形で「軸」を大切に守り続けています。不況の時でも、この「軸」がぶれないことで社員の意識が一つになり、危機や困難を乗り越える原動力となるのです。

「適応力」も不可欠です。どんなに優れた製品やサービスも、時代の変化とともに陳腐化します。100 年企業は、過去の成功体験に固執せず、常に新しい技術や顧客ニーズを取り入れ自らを変革していきます。例えば、もともと着物から始まった企業が洋服に進出したり、伝統的な製造業が IT 技術を導入したりと、大胆な方向転換を行うことも珍しくありません。しかし、その際も「軸」はブレず、事業内容が変わっても企業としての本質は守っています。

さらに「人材育成」も重要です。100 年企業は単に古いだけではなく、常に新しく、そして強靱です。その歴史は、激動の時代を生き抜くための知恵と現在のビジネスや人生にも通じる教訓に満ちていると思います。私達も変化を恐れず、大切なものは守り続けることの重要性を 100 年企業から学ぶことができるでしょう。

鎌野



## 平和とは

現在の日本は歴史上、一番栄えているといっても過言ないでしょう。株価は 43,000 円を超えて史上最高額を記録し、欲しい物があれば、アマゾンやアスクル等に注文すれば翌日に届き、物質的にはこの上なく恵まれていて、様々な物で世の中は溢れかえっています。それと幸せかどうかは別ですが、少なくともウクライナでロシアの侵略を受けている人々や、ガザでイスラエルの攻撃で苦しみ、食べるものもなく餓死している人々のことを考えると、幸せと思わなければいけないと思うのです。

令和 7 年 7 月 7 日、777 の日に新宿のマルハンというパチンコ店に 5 万 5 千人が開店前から並んだそうです。パチンコ台は 1,050 台ぐらいあるそうですが、抽選倍率は約 50 倍。それをクリアしても、必ず勝てるわけではないというのに。

そしてまた先日、マクドナルドのハッピーセットについてくるポケモンのカード欲しさに、行列ができ、転売ヤーが暗躍して、カード以外の物は捨てられたことが大きなニュースになりました。私もカードコレクターとして触手が動きましたが、買えませんでした。こんな国は、世界中で日本だけでしょう。平和と言えば平和なのですが、なにか間違ってた方向へ行っているのは確実ですね。日本はこのままでいいのか？平和ボケは確実です。米が高いとか、文句言っていられるうちが花ですね。

石破総理がアフリカ各国への援助を約束して、お金をばら撒いている云々の批判もありますが、もてる者が困っている人に手を差し伸べずして、どうして世界が平和になるのでしょうか？自国の利益のみを優先しているトランプ大統領の様な人ばかりに世の中がなってしまう、今以上に争いの絶えない世界になってしまうでしょう。私財をなげうって、困っている人を助けることは難しですが、各人が自分にできる範囲で、できることをすることは、人としての使命、生きた証ではないでしょうか。偉そうなこと言っ、すいません。

英樹



# 配り

第  
315  
便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室

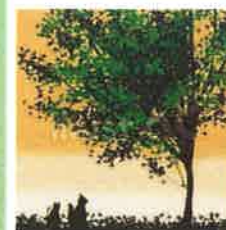
TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 御殿場市中山518番地

夕暮れに一ぴきの蟬鳴き声と  
移ろう風に羽音ものせて

ねがみともみ



おとしぶみに潜む小虫の息づかい  
見ぬ振りに摘む芙蓉の広葉

勝亦  
りつ子



## クマったクマった 2。

先月はクマの話題を書きましたけど、その後もクマ被害のニュースが後を絶ちませんね。新たに北海道でヒグマに襲われて亡くなられた方もいて、クマの被害がだんだんと身近になりつつある気がします。数年前、このまま温暖化が進んだら異常気象になって地球は人類が住めない世界になる。みたいな話がありましたが、実際にはもう異常気象の真っ只中で、着実に人類の生活圏は減っているのかもしれない。平野部ではエアコンが無いともはや生活できない夏。異常な雨。美しい四季のある日本にはもう戻らない。そうなると野山にいた野生生物たちの生息環境も大きく変わっているわけで、今までの生活が出来なくなり、人と野生とを隔てていた緩衝地帯が無くなり、生活圏がオーバーラップしてきているのです。駆除すればいいとかそんな簡単な話ではなくなっているよう感じます。これからもクマに限らず野生生物と人間とが遭遇する事故が増えていくのかもしれない。

1968年に公開された映画「猿の惑星」では宇宙飛行士テイラーは未知の惑星に不時着し、知能を持つ猿に支配された社会で捕らわれます。猿たちは人間を下等生物として扱うのですが、実はその惑星はかつて人類が支配していた地球だった。ラストで自由の女神像を発見してここが未来の地球だと知り衝撃の結末を迎えるという話なのですが、何百年か先、もしたら人間以外にも知性をもつ生物が現れて、本当にこの映画の世界のようになってしまうかもしれません。今から57年前の映画ですが今のこの地球の状況を予測していたのかもしれない。

この未来は変えなければなりませんね。今、私達には何か出来ることがあるのでしょうか？

柳田敏和



## 二百十日

「二百十日」(にひゃくとうか)は雑節(ざっせつ)の一つで、立春から数えて210日目のことです。今年(2025年)の立春は2月3日でした。その日から数えて210日目なので、今年の二百十日は8月31日(日)です。二百十日は例年、9月1日前後になります。二百十日のあたりは古くから、野分などの災害が起こりやすいとして、厄日(やくび)と考えられ、特に農家の人たちは警戒していました。

「二百十日」聞いた事があるかと思います。日本人が農耕民族であり、自然と密接にかかわっていかなければ生きていけないのだと認識する言葉です。前にこの紙面で書かせていただいた『事務所のトマト』現在クロンで部屋に3鉢、外に2鉢。そのまたクロンが3芽程。夏を迎え部屋ではどうなることかと思い、外へ出してみた。事務所はマックスバリュの2階のため屋根はあるが、風が強い。成長を止めて背丈を短くし、夏休みも、水やりをしてもらって、現在もトマトの実がついています。部屋の中のトマトは冷房の中、暑すぎる窓際で半ブラインドをし、という環境下ヒョロヒョロ伸びて、葉っぱは乾燥気味で花も乾燥気味だが、実はついて食べられます。出来は前回同様、皮固く酸味少なく甘みある中玉トマトです。凄いですね、この生命力。クロンのクロンで冬越せそう。肥料なんて気持ち程度。鉢は小さく風が吹けばよろけます。それでも、ちゃんと実がつきます。『事務所のトマト』をほぼ毎日見ながら、このトマト雑草の中ではやはり弱いかな？いや、実はなるかもしれないが、今までいなかった虫がいるな。まあ虫が食べるものは、安全に近い。などと考える・・・。あつと仕事してますよ。数字の世界。

兼題：磯遊 茜色掘れどもほれど磯遊

兼題：水母 国境水母ゆらゆら海静か

ねがみ

## 秋

ベランダのグリーンカーテンのゴーヤとミニトマトが終わりを迎えている。以前ならそろそろ秋の気配がしてくる頃だけど、今年は全く涼しくなる気がしない。まだまだ日差しが強いので、ゴーヤたちにはもう一踏ん張りしてもらいたいものだが肥料や水を撒いたりしても元気になりそうにない。

一緒に植えたバタフライピーは、まだまだ元気に伸び、きれいな花を咲かせている。原産国が、東南アジア・南アジア・タイなので暑さに強いのかな。多年草のマメ科つる性のハーブの一種だけど、寒さに弱いので日本では一年草の扱いです。せめて9月中旬くらいまでグリーンカーテンを維持したいので来年は、ゴーヤと交互に植えてみようかな。



祥子